

基本構想策定に向けた今年度の進め方



Japan Culture Design Laboratory

一般社団法人 日本カルチャーデザイン研究所

◆業務の目的

基本コンセプト

白馬村の豊かさを「美点凝視」して、多様な交流から学びあい、地域の本質的な価値を創造します。

そのためのプラットフォームとして新しい図書館は、すべての住民が生涯を通して学び、様々な目的や分野で定住・来村する国内外の人々が文化交流できる『場』として計画します。

本業務の推進においては、当社団の理事長である花井裕一郎が平成28年度より、白馬村の中・高校生や、一般村民、シニアクラブなどの多くの階層とのワークショップやヒアリングを6回に渡り丁寧に実施したことによる白馬村への総合的な理解を大切に活用し、村民が求める将来像の実現を全力で支援いたします。

そのために「学びあい育てあう村づくり」の中心的な新しい図書館の実現のために、本業務の内容として以下の4点をあげます。

1. 調査・分析（現状の把握、事例調査）
2. 有識者会議の運営及び検討委員会事務局の支援
3. 基本構想の策定
4. 連携プロデュース

地域連携の中心的役割としての図書館の創出



本業務を推進するために、広い連携を構想段階より意識し、「連携」を村づくりの中心的テーマとして白馬全体で対応できるようサポートします。

(ア) 業務の実施体制

一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所は、人や地域の尊厳を「美点凝視」して本質的な価値を創造することを目的に昨年、設立されました。この法人の目的は、地域でくらす人々の誇りを再評価し、発展させ、公共文化施設をわくわくする「場」とすることにあります。

本業務の実施体制としましては、図書館長として開館の立ち上げを経験している2名の理事と、建築家として図書館や文化施設を実際に設計した経験を有する理事が、直接的に担当いたします。多くの実績と経験を持つ最高のスタッフにより白馬村の新しい図書館が村民に永く愛される施設として誕生することをお約束いたします。

運営担当

理事
田中 榮博



主な実績

- ・千代田区立千代田図書館長
- ・くまもと森都心プラザ長兼図書館長
- ・くまもと森都心プラザ図書館アドバイザー
- ・熊本市立城南図書館アドバイザー
- ・福岡市東図書館アドバイザー
- ・福津市立カメリアステージ図書館アドバイザー

総合プロデュース

理事長
花井 裕一郎



主な実績

- ・長野県白馬村 図書館建設に関するアドバイザー
- ・長野県小布施町立図書館まちとしょテラス館長
- ・埼玉県岡岡市 生涯学習施設建設設計アドバイザー
- ・大分県杵築市 図書館建設基本設計協力
- ・大分県別府市 総合政策アドバイザー
- ・栃木県那須塩原市 図書館建設運営アドバイザー
- ・福岡県福岡市 図書館・歴史資料館「ふくちのち」建設アドバイザー
- ・群馬県太田市美術館・図書館運営提案協力
- ・高知県土佐市 複合文化施設設計協力
- ・和歌山県新宮市 文化複合施設建築設計協力他

建築担当

理事
坂田 泉



主な実績

- ・日本建築家協会 国際交流委員
- ・法政大学大学院デザイン工学研究科 非常勤講師
- ・一般社団法人アフリカ協会 特別研究員

主な建築作品

- ・横浜市中央図書館
- ・射水市中央図書館

白馬村コーディネーター

蓮井 英史 (村民)

京都出身。大阪芸術大学芸術学部、作庭家中根金作氏に師事。75年渡米中途退学、永住権を得て94年までニューヨーク在住。グラフィックデザイナー、アートディレクターとして主に日本企業の米国市場向け販売戦略や広告企画・制作に携わる。主なクライアントは、電通アメリカ、電通ニューヨーク、キャノン USA 他。帰国後97年、広告やイベントの企画・制作会社(有) Hummingbird を設立。06年東京から白馬に移住、グラフィックデザイナー&レストランオーナーとして Hummingbird を営む傍ら14年から白馬の地域政策に取り組む。

書記・議事録作成

石野 真 (村民)

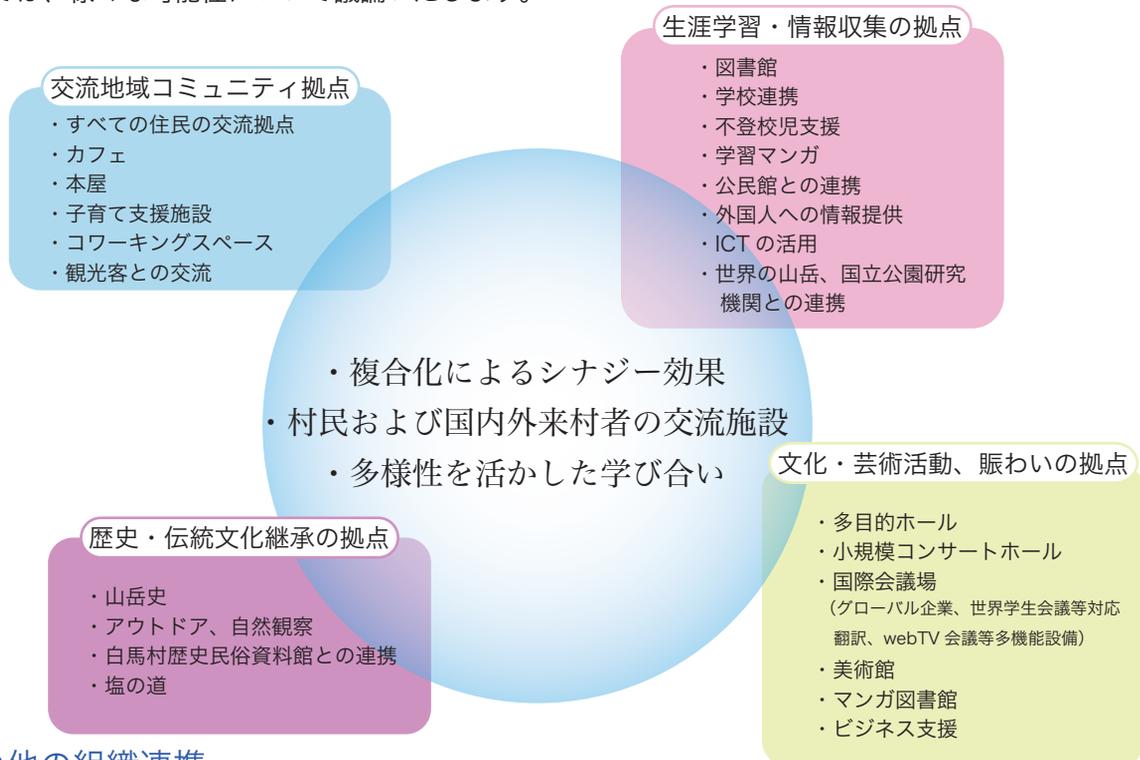
1973年東京生まれ。早稲田大学大学院修士課程卒。1999年～2002年株村田製作所にてノイズ対策商品開発、2002年～2006年同社にてセールスエンジニアとして拡販戦略や大電機メーカーとの共同開発などに関わる。長年の夢を実現する為に2006年に白馬村へ移住。宿泊業を営む傍ら地域活動にも積極的に加わる。2016年より一般財団法人白馬村振興公社事務局長。信州おもてなしマイスター。

業務内容		担当者	実務
(1) 調査分析	ア．現状の把握	花井 田中	既存計画、統計や花井が参加した検討委員会での議論を踏まえ施設機能をアンケート及びヒアリングにより住民ニーズを明確化する。
	イ．事例調査	花井 坂田	図書館の先進事例を調査し、まちづくりや観光拠点として整備するための広い連携を調査・報告する。
(2) 有識者会議の運営及び検討委員会事務局支援	ア．有識者会議の開催	花井 坂田	有識者会議メンバーを推薦するとともに会議の企画運営をサポートし、ドキュメントを作成する。
	イ．ワークショップの開催	花井 田中	住民ニーズをより明確化するためワークショップを企画、ファシリテートする。
(3) 基本構想の策定	ア．複合施設として備えるべき機能と候補地の選定	坂田	調査や会議、ワークショップの内容を精査し複合機能を提案し、最適な候補地を選定する。
	イ．基本構想の策定	花井 田中	前段の業務を踏まえ実現可能性、持続可能性の高い図書館の基本構想を策定する。
(4) 連携プロデュース	ア．村役場関連部局	坂田	新しい図書館を村全体で作り上げていく連携のプロセスを大切に、機能やニーズをヒアリングする。
	イ．その他の機関	花井 田中	学校・福祉協議会、観光機関、NPO、リゾート施設から広く連携するためのヒアリングをする。

◆複合施設としての機能の検討について

◇交流センターを考える

白馬村の現状を評価し今回の施設が有効で住民に愛される施設となるためには、実施可能性や継続可能性を考慮しながらも、広く複合コンテンツについて検討します。博物館、体育館をはじめとする体育施設、レクリエーション施設、児童館、産業センターなどでは老朽化が進んでいます。これに対処するためにも老朽化した施設の機能を複合化しつつ、継承する交流センターを考える必要があります。有識者会議やワークショップでは、様々な可能性について議論いたします。



◆その他の組織連携

子育て支援

- ・白馬村健康福祉課
- ・住民課
- ・子育て支援課

福祉・介護

- ・白馬村健康福祉課
- ・社会福祉法人白馬村社会福祉協議会

観光

- ・白馬村観光課
- ・各観光協会

学校

- ・白馬村教育課

村づくり (多文化交流)

- ・白馬村総務課
- ・各NPO法人

◇観光地からリゾート地へ

今後人口減少傾向が加速的に上昇することが予想されます。2040年には、高齢化率 43.8% とほぼ半数が高齢者です。若者比率は、16.2% と落ち込み財政が厳しくなります。

そうした中で、2022年の北京オリンピック・パラリンピックの開催以降、白馬では冬季を中心に中国およびアジアからのインバウンドの増加が予想され、観光客の増加は見込めると考えられますが、一方では、外国資本投資家（アジア資本）による土地の買収や開発がさらに進み、宿泊施設の増加などに伴うインフラ整備が村に求められることになり財政負担増が予想されます。近年みられる Airbnb や簡易宿泊施設のような人的サービス経費を削減し宿泊に特化した、(上質なサービスを提供することを目的としない)施設が増加すると、村としての収益面に於ける観光客層の質の低下などにも繋がり兼ねないと考えられます。財政難からの脱却のためには、観光から収益力強化を念頭にリゾートへの転換が急がれます。

◇リゾート地を支える交流センター

複数の経営プランの元で、保養を目的とした人々に対して、さまざまなレジャーライフが提供されている地域としてのリゾートを考えなければなりません。

これまで白馬村になかった、気づいていなかった価値の創造を視野に、本事業の図書館を中心とした複合施設(交流センター)の機能を検討する必要があります。山岳地域に立地する休日や休暇を過ごす世界の山岳リゾートの研究、世界各地の国立公園研究機関との連携や国際的な文化事業の開催、コンベンションセンター機能などを視野に検討を進めます。さらに、このプロセスの中で国内外の若者の交流や有能な人財の発掘、定住化促進、人材育成を目指します。

◆先進図書館事例

本業務を推進するためには、図書館の先進事例から学び、有識者会議と連携することが必要です。白馬村の地域特性を理解したうえで議題解決、子育て支援、新しいサービス、地域連携、ビジネス支援、観光とのシナジーなどの先進事例を分析評価し、管理・運営・サービスへの反映をご提案をいたします。

小布施町立図書館 まちとしょテラソ

まちづくり



長野県小布施町大字小布施 1491 番地 2
延床面積：999 m²
蔵書冊数：98,000 冊

【図書館を中心としたまちづくり】

まちじゅう図書館として酒屋、味噌屋、カフェや個人宅の玄関先に本棚を設置し、観光客や住民を巻き込んだ運営を実施している。交流と創造を楽しむ文化の拠点として住民参加の取り組みが高く評価され、ライブラリー・オブ・ザ・イヤー 2011 の大賞を受賞している。

福智町図書館・歴史資料館「ふくちのち」

まちづくり



福岡県田川郡 福智町赤池 970 番地 2
延床面積：3,586 m²
蔵書冊数：50,000 冊

【新しい図書館が実現】

福智町では、計画段階より中学校や住民が積極的に新しい図書館の実現に向けたワークショップや討論を重ね、従来の図書館では考えられない多様な機能を設置するに至った。交流広場、スタジオ、ものづくりラボ、キッチンラボ、歴史資料館、サイレントルーム、カフェ、こども広場など、多様な複合化を実現している。

くまもと森都心プラザ図書館

ビジネス支援



熊本市西区春日 1 丁目 14 番 1 号
延床面積：3,488 m²
蔵書冊数：229,000 冊

【ビジネス支援図書館】

図書館にビジネス支援センターを併設し、中小企業診断士が常駐し、中小企業や起業の支援を実施している。その他にも新しいサービスやイベントに積極的に取り組み、ライブラリー・オブ・ザ・イヤーを受賞した。

鳥取県立図書館

課題解決支援



鳥取県鳥取市尚徳町 101
延床面積：8,964 m²
蔵書冊数：1,104,000 冊

【日本一の課題解決型図書館】

くらしと仕事に役立つ図書館をミッションとして地域の課題解決を強力に支援している。地域での起業・商品開発・特許の取得を支援し、ビジネス支援の先進的サービスを実施している。さらに医療福祉、子育て支援、高齢者サービスも充実しており、第1回のライブラリー・オブ・ザ・イヤーを受賞している。

高浜市立図書館

連携



高浜市碧海町 5 丁目 1-5
延床面積：1,105 m²
蔵書冊数：205,000 冊

【食育と図書館の連携】

図書館に「食育コーナー」を設置し、レストランや美術館とも連携し、地域食材や健康について積極的に紹介している。定期的に食育についてのテーマを選び市民との連携を深めている。さらに絵本に登場する料理を丁寧に紹介し、子供たちにも啓蒙を続けている。

市立弘前図書館

利用者サービス



青森県弘前市下白銀町 2-1
延床面積：4,293 m²
蔵書冊数：509,000 冊

【子育て支援図書館】

次世代の地域を担う子供たちが健やかに生まれ育つことを願い、出産や育児関連図書を整備し、子育て世代をバックアップしている。0才から3才までの子供と保護者を対象とした「おはなし会」は、本を通じた親子のふれあいの大切さを強力に支援している。

村山市立図書館

まちづくり



山形県村山市楯岡五日町14番20号
延床面積：1,426㎡
蔵書冊数：117,000冊

【読書シティむらやま宣言】

市を挙げて読書に取り組む「読書シティ宣言」を実施している。図書館では、全国川柳コンクールや絵本作家によるワークショップや体験学習などのイベントを楽しく実施し、市が一体化している。子供たちには、子供読書の日を設定し、学校との強い連携によりまちづくりを実施している

国東市くにさき図書館

利用者サービス



大分県国東市国東町鶴川160番地2
延床面積：899㎡
蔵書冊数：76,000冊

【本の宅配サービス】

まちに住み、図書館に来館することが困難な高齢者や障害者に対し、直接本の宅配を実施している。すべての住民に対する真のユニバーサルデザインを理念とし、住民のニーズを親切にヒアリングしてリクエストに応えている。

塩尻市立図書館

課題解決支援



長野県塩尻市大門一番町12番2号
延床面積：3,286㎡
蔵書冊数：382,000冊

【本の寺子屋】

図書館を中心に、著者・出版社・書店が連携し、地域の課題解決に役立つ講座やイベント、展示会を一年を通して行い、地域力を高める文化創造に貢献している。イベントにおいては素晴らしい講師陣にも大きな魅力がある。

(イ) 作業工程・業務スケジュール

構想策定を密実なものにするために、各担当を効率良く配置することで、内容の濃い有識者会議・ワークショップ・図書館検討委員会を開催できる工程計画を提案します。

作業工程										
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体	現状を把握する		あらゆる角度からの議論				議論の集約		まとめ	
(1) 現状調査	現状調査									
(2) 村民・旅行者調査	村民・旅行者調査									
(3) 有識者会議			第1回		第2回		第3回	第4回		
(4) 村民ワークショップ				WS 第1回	WS 第2回	WS 第3回				
(5) 図書館検討委員会			第1回				第2回			
(6) 導入機能の検討							導入機能の検討			
(7) 事業プラン検討			理念の検討			事業計画プラン検討				
(8) 基本構想原案策定							基本構想原案策定			

成果物提出

◇現状を把握する

本事業では、6月～8月にかけて現状調査を行います。

調査には、当社団に加え、白馬村にて調査チームを結成します。

調査方法は、(1) アンケート (2) ヒヤリングを行います。

対象は、これまでワークショップでなかった白馬村観光振興関連、幼児の親、国内外宿泊者、外国人定住者などを中心に行います。また村外でも調査を行います。建築、医学、電気、電子など学会関連、リゾート系旅行代理店やホテル関連への調査を行います。

◇あらゆる角度からの議論

有識者会議、村民ワークショップ、図書館検討委員会が、バラバラの会議やワークショップにならないように有機的につなぎ報告、提案をまとめてまいります。

◇議論の集約

調査や各会議等で議論された機能をまとめ、白馬村事務局と綿密な打ち合わせを経て導入検討プランを盛り込んで参ります。

(ウ) 有識者会議事務局及び検討委員会事務局の支援方法

①有識者会議の支援とメンバーの推薦（年4回程度）

当社団では、白馬村の新しい図書館を通じた村づくりにおいて各分野におけるトップクラスのメンバーを推薦いたします。もちろんメンバーの選出は白馬村で実施されますが、本事業において将来的な継続支援を含めた人材をご紹介することが可能です。具体的には、図書館・教育・子育て・アート・観光・ホール・山岳・マンガにおける、日本を代表する方々をご紹介し、白馬村の図書館計画を通しての将来像を広く、深く討議していただきます。

当社団が推薦いたしますメンバーの採用・不採用に関わらず、有識者会議のファシリテートを実施し、会の運営を支援し、議事録を作成いたします。

さらに、本業務を推進するための調査、研究、先進事例の分析・評価や、施設見学の情報を積極的に共有し検討委員会とのシナジー効果を実現いたします。

図書館



糸賀雅児

教育



奥田純子

子育て



多田千尋

アート



岡田 勉

観光



JR 東日本&アルピコ交通

ホール



中澤宗幸

山岳



松沢貞一

マンガ



山内康裕

②検討委員会事務局の支援（年2回程度）

当社団の理事長：花井裕一郎が昨年度一年にわたり参加した検討委員会での貴重な議論を継承し、事務局を積極的に支援してまいります。

運営の手法としては、有識者会議との連携サポートや本事業を推進するに際して実施した調査、研究、先進事例見学などの情報を開示し、質の高い討議を支援いたします。

さらに検討委員会での決議・検討コンテンツをワークショップの運営実施方針につなげて当該事業が一体的に推進されるようご支援いたします。そのうえで、有識者会議、検討委員会の成果を正確にドキュメントした基本構想を策定いたします。

(エ) 住民意見の反映方法

あらゆるジャンルからの意見収集

まず本業務では、以前調査できなかったワークショップ未参加の村民や子育て中の家族等にも調査を行います。

その他、観光、まちづくり、教育、図書館利用者、文化事業関係者などあらゆるジャンルのもとへ出かけ、意見を収集します。

そこで、集約した白馬村図書館や文化施設が取り巻く現状分析と課題から抽出した情報をもとに、「SDGs（持続可能な開発目標）」の視点で3回ほどのワークショップを行います。ワークショップでは、SDGsの掲げる目標を案内図に、参加者ひとりひとりが白馬村のまちづくりのイメージを広げ、固めていきます。



SDGs から考える図書館

SDGsは、地域が世界レベルの議論に直接つながることのできる入口、いわば「スイッチ」といえます。17個の目標とその下に掲げられた169個のターゲットがあります。これらはすべて、地域の経済、社会、環境を考えることにつながります。また、SDGsが掲げる「誰一人として取り残さない」ことは、地域の生涯学習機能である図書館＝交流センターのあり方とつながると考えられます。

そこで、SDGsというスイッチを使って、白馬村の未来に必要なことを語り、そこから創造できる図書館＝交流センターのあり方、機能などを生み出すワークショップを行います。

- ① 17個の目標に沿って、一人ひとりが白馬村の未来への疑問、目標を書き出す
- ② そのために、白馬村に何が 필요한のかをそれぞれが探り、語る
- ③ 結果、みえてきたコトを図書館＝交流センターのあり方、機能として設定する

本事業では、SDGsへの取り組みに視点をおき、図書館を中心とした多様な持続可能なまちづくりの中心となる交流センターづくりを考えます。それにより、これからの白馬村の未来を担う場所となることを考えます。

ワークショップイメージ

参加者の選び方・「白馬村図書館を始め、文化施設から白馬村のまちづくりをどのように考えているか？」というテーマで作文の提供。事務局と協議を行いながら、20名ほどを選ぶ。

第1回

「村を見る・感じる」

- ①SDGsの説明後、白馬村図書館を始め、文化施設を視察します。本当に図書館や文化施設がどのようになっているのかを全員で把握します。
- ②実際見たこと、感じたことを議論します。または、模造紙等に項目ごとを書き示し感じたことをマーキングしていきます。

第2回

「聞いてみよう」

- ①20人の参加者が第2回までにそれぞれ30人から50人ほどに聞き取り調査をします。
- ②以前の調査などの資料、①をまとめたものをワークショップに提出、当日議論します。

第3回

「必要なものは」・・・

- ①SDGsの目標を実現するための場として、新しい文化施設に何が求められるかを議論します。
- ②ワークショップで得られた情報を有識者会議に資料として提出します。
- ③SDGsの視点からの新しい文化施設づくりを白馬村としての「自治体SDGsモデル事業」に位置づけ、内閣府地方創生推進事務局「自治体SDGs推進事業公募」（平成31年公示予定）に応募を検討します。



ワークショップ風景

(オ) 提案者の強みやノウハウ

これまでの村民への調査、ワークショップの成果を継続

当研究所理事長の花井は、平成 26 年 11 月の白馬村での講演会をきっかけに、12月の白馬村の百年後を考えるシンポジウムのパネルディスカッションなど白馬村との交流を始めました。平成 28 年は、図書館施設検討委員会のファシリテーターとして第 2 回より参加、その他ワークショップを展開しました。

白馬高校 WS



講演後、グループになりワークショップ。村外との触れ合い、温泉施設として、自然を感じる、ジム、他文化施設との複合などの意見がでた。

白馬村一般参加 WS



講演後、グループになりワークショップ。その中で新図書館に求めるベスト 5 を考えた。カフェの併設。本に関する業務だけではなく、地域とのコミュニケーションを大切に考える。不登校支援なども検討。白馬らしさ、温泉や自然環境との融合を検討。また外国旅行者への配慮も必要。音楽、映画など多目的なホールと専門ホールを検討。多くの体験型イベントなども行えるように考えた。

白馬中学校 WS



講演後、グループになりワークショップ。小さな子どもたちが楽しめるスペース。文化振興、まちづくりに役立つこと。漫画スペースの充実。自然との調和。畳コーナー。公園との併設。本屋、コンビニ、カフェの併設。駅からの近さ。バスによるアクセスの強化。

白馬村職員研修

職員研修として、図書館を中心とした白馬らしい複合施設を考えるワークショップ。職員目線からの意見や、職員が村民、外国からの滞
在者などから受けとめている意見などが多く寄せられた。

外国からの旅行者から温泉（温水）プールの問い合わせがある、など他、研修終了後のアンケートにて下記の回答を得た。

- ・歴史民俗資料館・中央公民館・運動ができるスペース（雨の日の運動、親子で軽い運動ができるなど）
- ・美術・芸術作品の展示・カフェスペース・白馬駅と融合した施設（東口開発でもいいかも）
- ・観光情報提供施設（場所によりますが）・公衆入浴施設・まんが図書館（復刻「まんが王国」）
- ・簡易宿泊施設・育て支援ルームと放課後児童クラブを併設した子育て拠点施設・白馬駅 2 階を図書館に
- ・カルチャーセンター・地場産農産物、ジビエを利用した軽食程度を提供するカフェ又は紫米粉団子
- ・おやき・そば茶等白馬産素材の和風スイーツを提供する和風カフェ
- ・地元の野菜、おやき、漬物等の販売店・花壇レベルの畑。



その他アンケートを依頼した幼稚園からは、村民、旅行者の両者が利用しやすい場所として検討。公園との併設。図書館というより大勢の人々が集まれる施設としたい。長期滞在の外国人向けのコーナーの充実。山岳、アウトドアに関する資料の充実などの回答も得られた。

シニアクラブ

講演会後に意見交換。雨の日に行く場所がない。カフェの併設。博物館やギャラリーの兼ねた施設という意見がだされた。

今までの経験を活かす

当研究所の理事長の花井は、他の自治体でもワークショップを実践しており、様々な手法でプロジェクトをサポートしてきました。その経験を活かし、白馬においても様々な手法をもちいて、有意義なワークショップを実践します。

市営住宅整備にかかる市民ワークショップ



コーチングにより参加者のコミュニケーションを活発に促し、その土地の得意技・苦手を洗い出しワークショップ。自分がやれることを発見、そこに住んで居ない人もわくわくすることを考える。最後には、その事業の理念を創造する

中学生と考えるワークショップ



小学生、中学生の視点で新たな設計について考えてもらうワークショップを開催。小・中学生の代表40名が8班に分かれて生涯学習施設設計画について話し合をした。これからの担う子どもたちに、より良い施設づくりについて共に考えるための機会とした。その後、生涯学習施設の愛称ワークショップをおこなった。

まちかど図書館計画ワークショップ



市内に存在する小さな図書館だけでは満足できない。市内の郵便局やショップなどいたるところに本を設置する活動のワークショップ。どこに設置したらいいのか市内の地図を広げながら考える。

図書館運営ワークショップ 絵本の配架ワークショップ



新しく建てた図書館。絵本棚を自分たちの目線で並べるワークショップ。これまでの分類だけではなく、子どもたちが実際考えるジャンル別を考えて、子どもたち自らが並べた。もう一つの絵本棚は、世界地図のように絵本を並べてみようというワークショップ。世界地図の配置のように、世界の絵本を並べた。

(カ) その他独自にPR・提案したいこと

◆有識者メンバーの推薦

多分野から日本を代表する有識者を選定し、白馬村にとって最適なエキスパート集団を推薦します。

図書館



糸賀雅児

慶應義塾大学名誉教授
東京大学大学院教育学研究科修了
2017年に慶應義塾大学文学部を選択定年により退職。
この間、中央教育審議会生涯学習分科会委員、
文部科学省これからの図書館の在り方検討協力者会議副主査、
国立国会図書館活動実績評価に関する有識者会議座長
東京都立図書館協議会副議長
(公社)日本図書館協会認定司書事業委員会委員長、などを歴任。

教育



奥田純子

北陸大学経済経営学部 助教 / 白馬村公益塾 元塾長
北陸大学地域連携センター 助教兼務 埼玉県出身。京都大学法学部
卒業、北海道大学公共政策大学院修了(公共政策学修士)。札幌本
社の民間企業に勤めたのち、2015年9月から白馬高校魅力化プロジ
ェクトに参画。公営塾の立ち上げに携わり、2016年4月から塾長。
地域課題発見解決型プロジェクト学習のカリキュラムを構築。
2018年4月から現職。

子育て



多田千尋

NPO法人芸術と遊び創造協会理事長、東京おもちゃ美術館館長。
林野庁の「木育推進」事業を受託し9年目。「木育サミット」「木育
円卓会議」を通じて全国の木育普及を進める。年間15万人の入館
者を集める経営手法を評価され、経済専門誌から日本の社会起業家
30人の一人に選ばれ、寄付社会の構築支援が評価され、ファンド
レイジング大賞を受賞する。長門市、由利本荘市の姉妹おもちゃ美
術館を皮切に、全国に10館のおもちゃ美術館を目指す。

アート



岡田 勉

ワコールアートセンター運営「スパイラル」シニアキュレーター
スパイラルで行われる現代美術展の企画、館外施設のディレクショ
ン、展覧会企画、パブリックアートのプロデュースなど。
2005年愛・地球博公式アートプログラム事業キュレーター、2
009年から象の鼻テラス(横浜)アートディレクター、2015年か
ら太田市美術館図書館のディレクション、ほか各種文化催事、施設
の実行委員、評価委員、大学講師など。

観光



東日本旅客鉄道（JR 東日本）&アルピコ交通

白馬村の観光を考える上で重要な「おもてなし」の玄関口（交通拠点）は、JRの白馬駅、白馬八方バスターミナルです。その玄関口に国内外の観光客に向けた、多言語の白馬観光ガイドや外国観光客に圧倒的に人気のあるマンガを中心に本を設置することを検討いたします。無人の図書館 24 時間貸し出しロッカーを設置しネットにて簡単な登録をすることで貸し出しを可能にできます。2 社と連携し観光客へのサービスを検討します。このシステムを利用して住民の書籍リクエストにも 24 時間対応が可能です。

ホール



中澤宗幸（なかざわ むねゆき）

兵庫県の山林業を営む木材店に生まれる。

ヨーロッパで遊学ののち、東京にアトリエを開く。

1983 年、長野県上田市に中澤ホールをオープンした後、(財)信州国際音楽村開村初代理事長を務め、地域の芸術文化活動の輪を広げる。

2011 年、兵庫県知事より文化功労賞受賞。

2012 年、東日本大震災による流木からヴァイオリンを製作。「千の音色でつなぐ絆」プロジェクトを展開。

著書に『いのちのヴァイオリン』他。

山岳



松沢貞一（まつざわ ていいち）

白馬村出身。早稲田大学政治経済学部卒業。明治 23（1890）年頃創業の白馬村〈ヤマキ旅館〉を前身とした、白馬山荘（日本初最大）をはじめとする各山小屋、榎池〈鐘の鳴る丘ゲレンデ〉のオーナー会社（株）白馬館代表取締役社長。長野県索道事業者協議会会長など歴任、北アルプス北部山小屋組合会長。山岳自然環境の保護や地域振興に取り組む。祖父松沢貞逸の功績は、「貞逸祭・白馬連峰開山祭」として毎年催され、北アルプス白馬連峰の山開きを告げ安全祈願の神事がとりおこなわれる歴史ある山岳イベントである。

マンガ



山内康裕（やまうち やすひろ）

1979 年、東京都生まれ。法政大学イノベーションマネジメント研究科を修了（MBA in accounting）。

2009 年にマンガを介したコミュニケーションを生み出すユニット「マンガナイト」を結成。

各種イベント・ワークショップ・執筆・選書を手がける。

また、2010 年にはマンガ関連の企画会社「レインボーボード合同会社」を設立し、“マンガ”を軸に施設・展示・販促・商品等のコンテンツプロデュース・キュレーション・プランニング業務等を提供している。

主な実績は「立川まんがぱーく」「東京ワンピースタワー」「池袋シネマチ祭 2014」「日本財団これも学習マンガだ!」「アニメ orange 展」等。「さいとう・たかを劇画文化財団」理事、「国際文化都市整備機構」監事も務める。共著に『『ONE PIECE』に学ぶ最強ビジネスチームの作り方（集英社）』、『人生と勉強に効く学べるマンガ 100 冊（文藝春秋）』等。

◆補助金・交付金取得の可能性調査

現在の白馬村は、少子・高齢化による税収の減少問題があり、当該施設の財源の確保や安定した運営経費を担保するための資金についての研究が必要であると思われます。今後の東京オリンピック・パラリンピックや北京オリンピック・パラリンピックでのインバウンド及び観光客の増加により、村のインフラ整備が求められ、その財源も必要となります。そこで、当社団においては、「独自にPR・提案したいこと」として補助金・交付金取得の可能性調査を実施いたします。

具体的には以下の2つの補助金について検討いたします。

(1) 社会資本整備交付金

- ① 窓口：国土交通省都市局市街地整備課
- ② 条件：
 - ・自治体の「基幹事業」として「効果促進事業」として位置付けること。
 - ・社会資本の整備と整備計画があること。
 - ・図書館の整備計画だけでは交付金の対象となり得ないため、都市整備計画事業や道路事業としての「基幹事業」に「効果促進」に必要な事業として計画すること。
- ③ 手法：構想計画段階より県や白馬村の関連部局と調査する。
(例) 県：市街地整備課、道路街路課、危機管理課
村：道路課、公園課、危機管理・防災課

(2) 地方創生事業費補助金

- ① 窓口：内閣府地方創生推進事務局／総務省
- ② 条件：
 - ・白馬村において本事業を「SDGsの達成に向けたモデル事業」として位置付ける。
 - ・プロジェクトチームを編成し、総務省「自治体SDGsモデル事業」の公募に応募する。
- ③ 対象経費の例
 - ・事業整備、機械装置導入経費
 - ・施設の新築・増改築の事業拠点整備経費
 - ・人材育成経費
 - ・システム開発経費

◆図書館 × 白馬 × マンガ によって

白馬ブランドを、文化の側面でもより強固に

白馬の大自然・スポーツ文化が、図書館を起点に日本文化と融合することで、文武白馬として、“白馬ブランド”がより奥深いものとなり、海外観光客にとってもより魅力的なものとなる。

図書館と出版社・著者の関係性の新たな架け橋に

インターネット・SNS・電子書籍時代における、図書館と出版者・著者、そして読者の関係性のあり方について、大衆文化・エンターテインメントでもあるマンガは鍵になり、他館に先駆けて実践できる文脈が白馬にある。

多様な生き方が認められる人生100年時代の学び

人生100年時代においては、20年増えた時間は、いかに学び直し第二の人生を歩むかが問われる。かつ歩む方々はマンガ全盛期にマンガから学んだ世代。学び直しの場所として適した図書館でマンガでもう一度学べるという経験価値は高い。

アイデアフラッシュ【参考例】

これも学習マンガだ！

エンターテインメントマンガの中から、学びに活きる200作品を3年間で選出。全国400館以上の図書館で展開されるに至った。

<http://gakushumanga.jp/>

青空マンガの旅

24時間無人貸出返却ロッカーを活用し、ウィンタースポーツや白馬を題材にしたマンガを貸し出すことで、大自然のもとで読書体験ができる。

未来の運動会

参加者自らが考えた参加者に合わせたデジタル時代の新たなスポーツをする運動会。自らルールをつくり、考える、競争ではなく共創時代の運動会をウィンタースポーツで実施。産まれた競技をマンガ化して全国の雪山に伝えるのも有り

<http://www.ycam.jp/events/2018/yamaguchi-future-sports-day/>

マンガコンテンツも実装した図書館発WEBマガジン

活字への導入としてもマンガは優れており、図書館の役割や未来の読者を育てる必要性、著作権教育など、図書に関わる人へのコンテンツをマンガや文章で伝える

マンガビブリオバトルデジタルファンレター

読み手の文化を育てて、その声や愛を著者に届けることをデジタルやSNSで実装

ノベルジャム

2泊3日で編集者・作家・デザイナーがその場でチームを組み、短編小説を書き上げ、そのまま電子書籍で販売するという小説のハッカソンコンテスト。マンガでも可能性があり、新たな描き手を発掘することにもなる。白馬の大自然で気分を変え、観光気分に参加できる。<https://www.noveljam.org/>

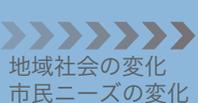
マンガ・表紙絵複製原画ギャラリー

海外観光客の方は、やはり文字よりも「絵」の方がなじみがある。かつアートマーケットも世界的に活況で、世界から観光客が集まる白馬で複製原画等を販売することで、出版社・著者にひいては日本文化にとってもプラスになる。

これからの図書館像

図書館を取り巻く環境の変化

読書支援型	・ 図書の収集、閲覧、貸出 ・ 蔵書量の充実
従来の図書館	・ 分類、整理 ・ 検索性の向上



課題解決型	・ 子育て・教育・高齢者支援 ・ ビジネス、産業支援
これからの図書館	・ 地域振興支援・行政支援 ・ 職業能力開発支援

市民の憩いの広場
～村民のサードプレイスとして～
村民や観光客を惹きつけるオープンな広場を実現するための要素

わかりやすさ	多様性	安全性
快適さ	交流	平等性

村民の役立つ図書館へ

連携 支援

～白馬村の情報環境の中核として～

- ・ 国会図書館、県立図書館との連携
国立国会図書館のデジタル化資料配信サービスの活用や県立図書館、近隣市町村図書館との連携により、村民の知的欲求に応えます。
- ・ 地域資料の構築
地域資料の集積や保存、デジタルアーカイブ化を進めます。村民や来訪者が白馬村を知り、白馬村の地域資料を構築する場となります。

つながる

子供達の成長に役立つ

連携 支援

- ・ 学校図書室との連携
学校図書室と連携し、学校に職員が出向いての調べ学習支援や読み聞かせイベント等を企画しこどもの読書推進を図ります。また図書館の仕事を体験する“職業体験”や“図書館ツアー”などを開催し、図書館と学校図書室を活性化させます。
- ・ 子育て環境の支援
子育て・教育に関する資料を充実させ、子育て世代にやさしい図書館を目指します。ブックスタート講座や子育て応援イベントを開催し、子育てや家庭教育に関する新たなコミュニティを創ります。

子供たちの成長

人づくりに役立つ

連携 支援

- ・ 課題解決支援の充実
健康・医療、法律、行政情報など生活上の課題解決につながる資料を提供します。利用者が必要とする情報の情報源となりえる人や機関、組織等を紹介するレフェラルサービスを含むフレアレンスサービスやデータベースの充実を図ります。
- ・ 人間性、社会性を育む
中高生の職業体験や高校生のインターンシップ教職員等の異業種研修等を受け入れられる環境を整えます。

人づくり

地域おこし・まちづくりに役立つ

複合 支援

- ・ 白馬の魅力を伝える
豊かな自然や温泉、スキーなど白馬村の色とりどりの四季の魅力やグルメを紹介する資料の収集やイベントを開催します。そば打ち体験やトポ玉体験、美術館などとも連携し、白馬村を訪れる観光客だけでなく住民が白馬村の魅力を知る場となります。地域住民と観光客が語り合い、交流する場とすることで図書館が滞在型観光地の新たな観光資源となります。
- ・ ビジネス支援・産業支援
白馬村のメイン産業である観光に関する資料を集めたコーナーを作り、現在就労している人々や、これから白馬村で就業・起業しようとする人々に対するビジネス支援を行います。
- ・ 白馬村ブランド
山岳リゾート白馬村の観光や産業に関する様々な情報や、グルメ、伝統工芸品を紹介し、地域を知り、地域内外に発信するコーナーを作ります。
- ・ 国際会議場としての役割
多国籍企業やインターナショナルスクールなど付加価値のある国際交流人口の増加を通して白馬村の活性化を図り、国際的な知名度の向上を狙う。地域の自立的・持続的な発展につなげます。
- ・ 山岳国立公園との連携
山岳自然環境保護の研究に卓越した世界各地の国立公園や研究機関との連携。情報の共有や資料収集など国際的な視野で学術的な分野でも白馬の存在を確立していきます。
- ・ アウトドアの交流センターの役割
登山者が必要とする案内資料や安心安全な登山が体感できるVRガイド機能、ロードバイクの人達が気軽に立ち寄り休息できる屋外カフェ等の施設も完備を検討します。

まちづくり

“7つの役立つ図書館”

子供達の成長・人づくり・暮らし・まちづくり・文化振興

少年・高齢社会や国際化、高度情報化の進展など時代のニーズに対応した、白馬村民にとって本当に役に立つ図書館づくり

暮らしに役立つ

滞在 複合

- ・ 地域の課題を解決できるコミュニティの拠点
村民の課題解決のためのイベント開催や多様な市民活動のための場を提供し、新たなコミュニティの拠点とします。憩いの場、情報発信の場、出会いの場として村民の新たなサードプレイス(居場所)となります。
- ・ 高齢者サービスの充実
健康・医療、介護、年金など、高齢者の関心が高い分野の資料を充実させます。また交通手段の無い高齢者を対象に移動図書館サービスを行います。

暮らし

文化振興に役立つ

滞在 複合

- ・ 市民の情報発信、交流の場
図書館の資料と関連した展示のほか、写真、絵画、俳句など市民の創作活動を発表する場をつくりまします。伝統工芸品の製作体験や、美術館や地元の祭りや連携したイベントなどを開催し、市民の交流の場とします。
- ・ 伝統文化を継承する
塩の道祭りや善鬼伝説の残る白馬村青鬼集落など、地域の伝統文化の継承と発信を行います。

文化振興

情報と人のネットワーク

ICT 支援

～ICTの活用で地域の暮らしを豊かにする～

- ・ 世代間をつなぐ「学びあい教室」でICTを学ぶ
地域の中高生がファシリテーターとなり、地域の子どもや高齢者に向けてICTの活用方法を教えます。高齢者はお返しに中高生に伝統文化や知恵を教えます。
- ・ デジタル古地図×白馬村
デジタル古地図「地図ぶらり」による村民参加型の地域コンテンツづくりにより、白馬村を知ると同時に、デジタルを学ぶことができます。
- ・ IoT技術の活用
IoT技術による多様化でこれまでになかったサービスの創造ができます。

情報

◆IoT 技術の活用

IoT 技術の進化、ニーズの多様化に伴い、新しい技術を用いた図書館の可能性も検討致します。

24時間無人貸出返却ロッカー「スマートブランチ」



利用イメージ

- Step1 利用者はあらかじめ、例えば「パスポート情報」や滞在期間などを図書館の利用者認証システムに登録をし、二次元バーコード化された短期間の利用 ID を取得します
- Step2 利用者はスマートブランチ内に配架された資料をブラウジングし気に入った資料があれば、スマートブランチの二次元バーコードリーダーに利用 ID をかざします
- Step3 スマートブランチはかざされた ID が正規のものであれば扉のロックを解除します
- Step4 利用者は扉を開け資料を抜き取り再び扉を閉めます
- Step5 スマートブランチは扉が閉じられた時点でロッカー内の資料の IC タグを読み取り、取り出された資料を特定し、貸出情報レシートを出力します
- Step6 返却時はスマートブランチに再度配架するか、近隣施設に設置された IC リーダー内蔵の返却ポストに投入するだけで返却手続きは完了します

メリット

- 24時間、好きな時間に貸出・返却が可能です
- 複数の資料を配架できるので人気のある資料やジャンルで幅のある資料提供が可能です
- 段ごとに言語を分類するとあらゆる言語の利用者にサービスが提供できます
- 電源とネットワークのインフラが整っていれば、利用者ニーズの多い施設に設置ができます